

昭和10年創業、親子3代続く内装仕上工事業 『かわさきマイスター』の 匠の技術を継承

内装ハシモト

川崎市では、平成9年度より「手」や「道具」などを駆使し、極めて優れた技術・技能を発揮して産業の発展や市民の生活を豊かにする現役の技術、技能者を、市内最高峰の匠「かわさきマイスター」に認定する制度がある。

平成24年度、その「かわさきマイスター」として認定されたのが、内装ハシモト（川崎市中原区上小田中、044・788・7292）の代表取締役である橋本一成社長だ。

平成28年度現在で91名が認定を受けているかわさきマイスターのうちでも、内装の職人はわずか3名と極少数となっている。

同社は昭和10年に蒲田の地で創

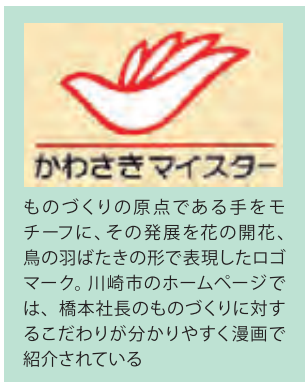
業し、現在の橋本社長で3代目になる老舗内装工事業者である。

橋本社長は大学で経済学を学んだ後、家業の内装工事業に入ってから、77歳の現在も、現場で内装仕上作業に携わっている。多様な技能と伝統的な技法の応用、新製品の施工法の研究が要求される現場において、若手の育成にも率先して取組んでおり、講習会指導や技能検定員を続けている。同社が手掛ける内装には妥協がなく、戸建てからハウスメーカーのアパート、ホテルの客室まで、幅広く受注を獲得している。



自身の仕事に情熱と誇りを持つ橋本一成社長

内装業界でも職人と呼ばれるような熟練の人材が少なくなっている中で、同社は確かな技術を継承している。「ご注文いただいた内装でお客様の笑顔が見られることはこの上ない喜びです」とやりがいを語る橋本社長のもと、これからも次代に向けた技術継承と業界の発展に貢献し続けていくだろう。



ものづくりの原点である手をモチーフに、その発展を花の開花、鳥の羽ばたきの形で表現したロゴマーク。川崎市のホームページでは、橋本社長のものづくりに対するこだわりが分かりやすく漫画で紹介されている